



元気に！楽しく！明るい笑顔で活動するボランティアスタッフの皆さん（10/23撮影）

## Topics

- ・「子どもが一人で来られる場所」から地域の中の「誰でも来られる場所」へ  
こども食堂・とみさと
- ・新団体の紹介  
ハロー5みなみ応援団
- ・ちい寄附賛同店  
お好み焼き みほ  
もつ焼きホールモン
- ・とみさとの魅力みつけた！  
装蹄師 小泉 元良さん

## あたたかな居場所として

様々な課題を抱えている子どもたちに「温かいご飯と居場所を提供したい」という思いから始まった子ども食堂は、子どもたちの第3の居場所としてまたたく間に全国各地に広がりました。

現在は子どもたちだけでなく、地域のなかで多世代交流や地域づくりの場になっています。その数は全国で約6,000箇所※にまで増えています。

次のページでは富里市で子ども食堂を主催している「こども食堂・とみさと」に、活動についてお聞きしました。

(※2021年12月「むすびえ及び地域ネットワーク」調べ)

# 「子どもが一人で来られる場所」から、地域の中で「誰でも来られる場所」へ

## 今、子どもたちは…

日本は『豊かな国』と思われていますが、7人に1人の子どもが相対的貧困（国の一般的水準よりも貧しい）の状態と言われています。また、ネグレクトや保護者の仕事の関係で孤食など食事に関する課題を抱える世帯もあります。

子どもの見守り支援や食のセーフティネットとして重要な役割を担う「子ども食堂」を中心に、より多くの支援の輪が広がることが望まれています。

## 始まりは二人の立ち話から

「こども食堂・とみさと」は今から6年前の10月、宮本さんと高橋さんの駐車場での立ち話から始まりました。

いろいろな事情で食に関する様々な課題を抱える子どもたちがいる、というニュースが大きく取上げられるようになった頃、「富里にも課題を抱えている子はいるのかしら？」という宮本さんの問いかけをきっかけに、「困っている子やさみしい子がいたら寄り添ってあげたい。家でも学校でも居づらさを感じる子どもの第3の居場所になるといいな。」そんな思いから始めようということに。近隣の子ども食堂を見学し話を聞いたりしながら、賛同してくれる人を集め、資金を調達し、活動を始めました。

## 支えるたくさんの手

「こども食堂・とみさと」は、月2回、第2と第4日曜日に中部ふれあいセンターで開いています。コロナ禍で食堂が開けない時期は、食材の配布をしたり、お弁当を配ったりして皆さんに届けてきました。会場で食べられるようになった今は、毎回40人前後の子どもたちや親子連れ、一人暮らしの高齢者の方が訪れています。

それを支えるスタッフは、現在総勢43人。6つのグループに分かれて毎回12～15人ほどが活動しています。この日お会いしたメンバーの一人は「毎回来ています。いろんな人に会えるのが嬉しいんです。」と話していました。来た人に温かいものは温かいうちに食べてもらえるように、スタッフは調理や配膳にも気を配っています。



たくさんの野菜や大きな鍋が並び、調理開始！

## 地域の方々の協力が大きなチカラ

朝9時前に軽トラでやってきて、たくさんの野菜を届けてくれた農家さんがいました。その他にも、毎回お米や野菜、果物など、市民や農協、企業などからも多くの寄付物資や寄付金が届けられています。

高橋さんは「最初の頃は、お金はどうしよう？という心配もありましたが、多くの方からの寄付や協力があって、やってこられました。」と話していました。

## ここに来るのを楽しみに

「近所に引っ越してから来るようになりました。いつも温かく迎えてくれるのが嬉しいです。」という親子。友達と来ていた小学生は、自分が来た時に「いいな」と思って、今日は友達を誘って来たそう。年配の女性3人連れの方は「いつも一人で食べているから、みんなで食事できるのが嬉しい。」と笑顔で話していました。

スタッフは、やってくる子どもたちや親子連れに声をかけ話を聞いています。いつも来る子が来なかったりすると、どうしたかな？と心配になるそうです。いろんな世代の人たちのほっとできる場所、ゆったりした時間を過ごせる場所になっているのですね。



子どもと一緒にゆつくりできると、いつも楽しみに来ている親子。

## もっと多くの子どもたちに

「こども食堂・とみさと」は、『子どもは無料！（大人200円）予約制にはしない！来た子にはお腹いっぱい食べてもらう！』というのがポリシーです。当初は「子どもが一人で来られる場所」として始めましたが、今では「誰でも来られる場所」「交流の場」として広がってきています。

現在、富里市内に子ども食堂は、ここ1箇所のみですが、宮本さんは「このような場を必要としている子どもたちや地域の人たちに、どうやったら届けられるのかがこれからの課題です。そのためにもこういう場所をほかの地域にも増やしていきたい。繋いでいく人が必要なんです。」と話します。

この先、コロナ禍が落ち着いたら、現在休止中の子どもたちの学習支援や遊びの場も復活できたら、という思いもあります。このような「場づくり」に関心のある人には、立ち上げまでの伴走支援をすることもできます、とのこと。

子どもたちや地域への思いをもって、次の居場所が生まれることを期待したいです。

ボランティア参加・見学・お問合せなど  
興味のある方はぜひご連絡ください

【連絡先】 〈代表〉 宮本 090-1531-9101  
〈事務局〉 高橋 090-2745-5430



# 新しく立ち上がった市民活動団体を取材しました！

## ハロー5みなみ 応援団

できることから始めよう

「ハロー5みなみ応援団」は日吉台5丁目南地区に住んでいる方たちを対象に、生活の困りごとを解決するため、令和4年4月に立ち上がった団体です。今回は、活動の中心を担っている皆さんにお話を伺ってきました。

### Q.活動を始めようと思ったきっかけは？

ここ5丁目南地区は防災・防犯・ゴミ問題などに対する自治組織がともしっかりしています。一方で、「地域福祉」の分野で、支援を必要としている方への活動がまだ手付かずの状態でした。それを強化していこうと考えたのがこの活動を始めたきっかけでした。

福祉については素人だったので、勉強していこうと別の自治会のモデルケースを参考にさせていただきました。また、住民にアンケートを実施し、実際に困っていることなどの具体的な声を参考にすることで、なんとか形にすることができました。

### Q.活動の内容を教えてください

団員13人で、依頼者の「庭の草木の手入れ」「花木の水やり」「ゴミ出し」「スマホの使い方」といった困りごとのフォローをしています。いろいろやっても手薄になってしまうので、できることからスタートしようということになりました。

料金設定もはじめは、無料にしようと思ったのですが、逆に利用者が頼みづらくなるのでは？と考えた結果、有料にすることにしました。

今受けている作業は、草刈りが一番多いです。1つの依頼に3~4人以上で作業するようにし、依頼者の方にも負担が増えないよう短時間で終わらせるようにしています。

「ハロー5みなみ応援団」は日吉台5丁目南地区に住んでいる方たちを対象に、生活の困りごとを解決するため、令和4年4月に立ち上がった団体です。今回は、活動の中心を担っている皆さんにお話を伺ってきました。

### Q.応援団員の声、利用者の声を聞かせてください。

今年80歳になる団員は、「現役の頃は家内にいろいろと任せっぱなしだったので、少しは世の中に貢献できているかな」と言っています。4回目の庭木の手入れを頼まれた利用者の方からは、「一人暮らしなので本当に助かった。風通しが良くなって、防犯上見通しも良くなり安心して生活できる」と言ってもらえました。

こうした喜んで頂いている声を聞くと励みになります。



一人暮らしの方の依頼で草取りと庭木の剪定をする団員

### Q.これからの活動の目標は？

この活動をする中で、何かあった時にお互い声をかけやすくなりました。これからは高齢者の居場所、コミュニケーションが取れる機会を作っていきたいと思っています。



「困った時はお互い様」の精神、最近少なくなってきたな～と感じていましたが、ここではそんな精神にあふれた方がたくさんいて、びっくりしました。いざという時に心強いですね。印象的だったのは皆さん、笑顔が溢れていたこと。活動を心から楽しんでいる様子が伝わってきました。

「うちの地域でもやってみたい！」と興味を持たれたら問合せしてみたいはいかがでしょうか？

連絡先：田上 博光（コーディネーター）

Tel：090-1030-4702

✉：1215tagami@gmail.com

## 「寄附で支えるまちづくり」に協力していただいているお店

### お好み焼き みほ

由井 政道さん  
由香さん

市民活動は自治会の草むしりくらいしか知りませんでしたが、市役所の方に声をかけられてそんな形での協力もあるのだなと思い参加しました。少しでも役に立てるなら嬉しいです。



【富里市十倉514-13 Tel 0476-92-8477】

### もつ焼きホールモン 岡澤 昭夫さん

寄附で支えるまちづくりの仕組みは商工会を通して知り参加しました。お店をオープンして4年。地域の方がたくさん来てくれるので、お店としても地域の役に立てて良かったです。



【富里市日吉倉3-13 Tel 090-9393-7367】

# とみさとの魅力みつけた！

富里の魅力ある「人」「場所」「文化」などにスポットをあてて紹介していきます。

こいずみもとよし

小泉元良さん  
装蹄師



## きっかけは突然に

多くの人の夢を乗せて力強く走る競走馬。障害競走で様々な障害に挑む馬。風と一体となって軽やかに走る牧場の馬。そんな馬たちの蹄（ひづめ）の管理を行う装蹄師（そうていし）として、長年にわたり従事しているのが小泉元良さんです。

獣医を目指していた浪人時代、進路に迷いが生じたときに、知り合いの牧場の方から、こんな仕事があるよと紹介されたのが装蹄師でした。もともとデスクワークはやりたくなかったので、面白そうだなと思い、長期講習を受けて装蹄師の道に入りました。親方について約8年、浦和の競馬場で約3年の経験を積んで、その後独立し今に至ります。

## 時にはこんなハプニングも

小泉さんは、富里の牧場に各地から集まる足を痛めた競走馬や疲れた馬の手当てをしています。一本一本状態が違う蹄を、前と後ろ、また内側と外側のバランスを取りながら削っていきませんが、このバランスが崩れると足の腱を痛め、ひどくなると骨にまで影響してしまいます。



小泉さんの七つ道具



頭が四角い特殊な釘

削って平らになった蹄に、競走馬にはアルミ製、乗馬用の馬には軟鉄製の蹄鉄（ていてつ）を特殊な釘で打ち付けます。小泉さんが愛情込めて手当をしても、時には馬の機嫌の悪い時があり、作業中に蹴られたり踏まれたりと、とんだ災難があるようです。

「あっちこっち骨折だらけだよ～。あっはっは～」と、ご本人は大したことでもないような話しぶり。



使い込まれた道具を手にして

## やりがいを感じる時

そんな小泉さんに装蹄師の魅力を伺うと、「馬の様子がおかしいから行ってみたら、蹄の中が化膿していたね。膿を出したり削ったりして装蹄療法を施したんだよ。その後、調子が良くなったと聞いて嬉しかったね。そういう時は本当にやりがいを感じるね。」と、装蹄師としての45年間で、幾度となく感じた喜びを話していました。



今は身体と相談しながらゆっくりと仕事をしているそうです。これからもお馬さんたちのために、どうぞよろしくをお願いします。

## コーディネーターのひとりごと

先日、皆既月蝕がありましたね。いい条件で見られるということで、私も「よしっ！」と意気込んで、見晴らしの良い公園に出かけて眺めてきました。もちろん温かい飲み物とおやつも持参して。赤銅色の月もきれいだったけど、月蝕が終わってからの満月の明るさにも感動！約4時間、宙に魅せられた夜でした。（りんご）

## SNSアカウント



<連絡先>とみさと市民活動サポートセンター

〒286-0292 千葉県富里市七栄652番地1(富里市役所 すこやかセンター1階)

■Tel/Fax:0476-93-4123 ■E:tomisapo@bz04.plala.or.jp

年4回発行 発行部数：2200部 配布先：市内公共施設 他

